

沼津市立病院新改革プラン評価委員会委員による点検・評価結果について

1 趣旨

平成 28 年度末に策定した「沼津市立病院新改革プラン」（計画期間 平成 29 年度～令和 2（平成 32）年度）では、病院事業の経営改善に総合的に取り組むことにより、令和 2 年度までに経常収支を黒字化することを目標としている。

経営改善の着実な推進を図るため、本プランでは年 1 回委員の点検・評価を受けることとしており、プラン最終年度である令和 2 年度の取組みについて、各委員から意見を伺った。

2 概要

本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染リスク低減のため、市外の委員（上西、田中委員）には個別リモート会議により、市内の委員（西方委員）には個別訪問により評価を受けた。

(1) 評価委員会委員

	氏名	所属	職	実施日
委員長	上西 紀夫	公立昭和病院	病院長	令和 3 年 8 月 30 日
委員	田中 一成	静岡県立総合病院	病院長	令和 3 年 8 月 26 日
委員	西方 俊	沼津医師会	会長	令和 3 年 9 月 1 日

(2) 委員からいただいた主な意見

ア 収益確保に関するもの

- ・地域の開業医との連携をさらに強化し、逆紹介率を紹介率の 2 倍程度に上げられると良い。
- ・泌尿器科（令和元年度実績）と麻酔科の医師を確保できたのは、手術件数の維持にも効果が現れており、病院の収益面から考えても大きな実績である。
- ・地域医療連携推進委員会は地域のより良い医療提供体制の確保に重要なものであるため是非継続して実施していきたい。

イ 経費削減に関するもの

- ・医療材料費が減少傾向にあったり、コロナ禍にあっても給与費率の上昇を抑えられたりしているのは、継続した取り組みの効果が出ている。
- ・材料費比率は改善傾向であるが、価格交渉を粘り強く行うなど取り組みを継続し、さらに比率を下げられると良い。

ウ 経営の安定に関するもの

- ・令和 2 年度は医業、経常収支は数字としては赤字であるが、これまでの取り組みの成果が出ており、コロナ禍にあっても病院経営としては評価できる内容である。
- ・三次救急や地域周産期母子医療センターなど県東部の基幹病院として貴院に求められる役割を堅持しつつも、コロナ対応も担ってきたことは評価できる。

- ・DPC係数の推移を見ても改善されており、急性期病院として相応しい診療内容となってきたことの現れである。

エ その他全体的な病院運営に関するもの

- ・コロナ禍にあっては院内感染を防ぐことを最優先にあらゆる対策を立てることが重要である。
- ・「医師の働き方改革」に関する勤務環境の整理と医療提供体制の現状との調整が今後の重要課題となってくる。

3 今後の取組み

本プランの計画期間は令和2年度をもって終了となるが、経営改善のために必要な取り組みである、地域の医療機関との連携のより一層の強化や、紹介率／逆紹介率を上げることにより患者数の増加を図っていくこと、また、医師の確保については、引き続き院長及び副院長が幅広く大学医局へ働きかけ、協力関係を深め医師の招聘に力を注いでいくことなど、プランに基づく取り組みはより一層の精度をかけ継続していく。

今後も新型コロナウイルス感染症の院内感染防止対策を行うことを最優先とした上で、医師確保、患者数の増加策等の収入を増加させる取組み、材料に係る価格交渉など費用削減策の取組みを進め、安定した病院運営を図っていく。

また、新たなプランの策定については、総務省の「新公立病院改革ガイドライン（改訂版（仮）」の発出状況や、国の関連する政策動向を注視し、必要な時期に新たなプランを策定するよう、取り組みの実施・評価の状況を分析しながら併せて準備を進めていく。